



ほぼ週刊 輝けとわに 第370号

2024.5.17

〒247-0005 横浜市栄区桂町84-14 TEL: 892-2155 FAX: 892-9241

横浜市立本郷中学校

ホームページ <https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/jhs/hongo/>

校長 湊 浩一

【学校教育目標】 自ら学び ひとつつながり しなやかに未来を拓く人

【学校スローガン】 あ（挨拶） せ（清掃） か（感謝） け（けじめ）

自然教室

校長 湊 浩一

2年生の皆さんが、2泊3日の自然教室から元気に帰ってきました。野沢温泉村はとてもいいところでしたが、予想していた以上に遠かったのも事実です。どうして以上かということ、事故渋滞があったからです。往路は、中央道を使えば回避できたはずなのですが、圏央道を直進し渋滞に突入してしまいました。復路は、渋滞を回避し中央道を走ったのですが、それでも小仏トンネルはいつものように渋滞していました。2日間とも圏央道が事故渋滞とは、予定外でした。

さて、渋滞で到着が遅れることを教員は嫌います。往路であれば、プログラムを縮小したり、時程を変更しなければならないからです。復路であれば、子どもたちの帰宅が遅くなるということも発生します。さらに、バスに弱い人もいれば、閉鎖空間が苦手な人もいます。遅れてしまったことで、僕はハラハラしていました。小さい人間です。でも、1組の生徒の皆さんは大物でした。往路もイライラせず、バス移動を楽しんでいました。担任をしていた頃は、バスレクを企画させたり、テープ（音楽やDJ）をつくらせたこともありましたが、1組のみなさんは、学校生活の延長線上のように普通に楽しんでいました。教室がバスになっただけです。

さらに驚いたことは、帰着が遅くなりそうということを担任が伝えると「やった！」という歓声が揚がったことです。一瞬、おかしくなってしまったのではないかと心配しましたが、仲間と同じ空間にすることが楽しくて仕方ないのでしょう。修学旅行が「こだま」から「ひかり」に変更され、新幹線で過ごす時間が短くなり、楽しい時間が短くなったように感じたことを思い出しました。「こだま」は、止まるたびにドアに張り付く必要がありましたが、車内の子どもたちは楽しそうでした。そういえば、スキー教室で帰着が8時を過ぎたときも、子どもたちは喜んでいました。もっとバスに乗ってほしいという子もいたほどです。仲間と過ごす何気ない時間ほど楽しいものはありません。そして、そういうかけがえのない時間ほど、早く過ぎ去るものです。それが渋滞で延長されたのですから「やった！」となるのです。2年生の皆さんは、野沢温泉村で豊かな自然と触れ合ったはず。分宿も楽しかったでしょう。それも仲間がいての話です。この2泊3日で、仲間との絆は確実に深まったはず。なぜそう思ったかということ、退村式会場で「俺スマホなくてもやっていけそう」という声も耳にしたからです。いい自然教室でした。

令和6年5月20日～24日の予定【A】

日 曜	1	2	3	4	昼	5	6	掃	備 考
20 月	道徳	月2	月3	月4	○	月5	月6	○	朝会 教育実習開始
21 火	火1	火2	火3	火4	○	火5	火6	○	②3・4校時練習 ②③6校時なし
22 水	す1	す2	す3	す4	○	学活	*	○	①3・4校時練習 ③1・2校時練習
23 木	木1	木2	木3	木4	○	木5	木6	軽	歯科検診 専門委員会
24 金	金1	金2	金3	金4	○	金5	総合	軽	①1・2校時練習 ②3・4校時練習 ③6校時練習